

【声明】

## 核兵器禁止条約の批准国が 50 カ国を超えたことを大歓迎する

2020年10月25日

核戦争に反対する医師の会（反核医師の会）

本日、核兵器禁止条約を批准した国が 50 カ国を超えた。90 日後には、この条約が国際条約として発効する。私たち反核医師の会は、被爆から 75 年のこの年に、核兵器禁止条約の発効が確定したことを大歓迎し、核兵器の廃絶を願う被爆者、非核兵器国、並びに市民団体などの多くの仲間たちと共に喜びたい。

ヒロシマ、ナガサキに原爆が投下され、その年の 12 月までに 21 万を超える命が奪われ、生き残った被爆者に今なお続く多大な苦しみを強いてきた核兵器を、この地球から廃絶することは、被爆者はもちろん全人類の願いである。しかしながら、今なお 1 万 3 千を超える核兵器が存在し、核兵器国は NPT で認められた 5 カ国に加え、インド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮と増えており、核戦争による人類の滅亡の危険がかつてなく高まっている。

被爆者を中心として、核兵器の非人道性を世界に訴える運動が広がる中で、核兵器の開発、実験、製造、備蓄、移譲、使用及び威嚇を禁止するという核兵器禁止条約が国連で採択された 2017 年 7 月 7 日、我々は人類の未来に大きな希望を持つことができた。

核兵器禁止条約が発効しても、核兵器がなくなるわけではない。圧倒的多数の国連加盟国がこの条約を批准し、核兵器に悪の烙印を押し、核兵器国ならびに核の傘の下にある国々に、核兵器による安全保障ではなく、信頼と友好による安全保障を求めなければならない。

その中で、戦争による唯一の核兵器被爆国でありながら、わが日本政府が「核兵器廃絶は究極の目的」として、核兵器禁止条約に背を向けていることを許すわけにはいかない。「後世の人びとが生き地獄を体験しないように、生きていくうちに何としても核兵器のない世界を実現したい」という被爆者の願いに寄り添い、核兵器禁止条約を批准し、核兵器廃絶の先頭にたつことを強く求める。